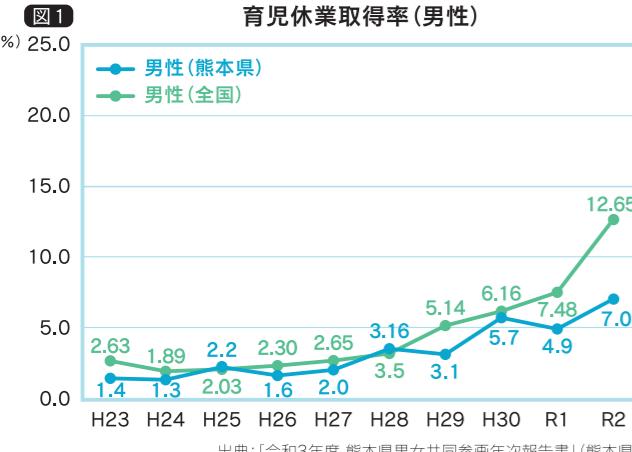
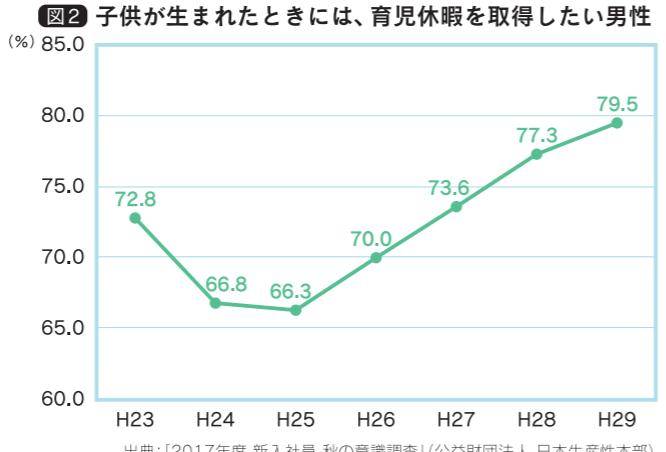


## 男性の育児休業取得の理想と現実



新入社員の意識調査によると、男性の79.5%が子どもが生まれたときには育児休暇を取得したいと考えています(平成29年)。一方で、全国の男性の育児休業取得率は、12.65%(令和2年度)、熊本県は7.0%(令和2年度)とさらに低く、理想と現実との大きな差が表れています。



山田 不安はとてもありました。ただ

山田 不安はとてもありました。ただ



お互いの子育て感について語り合い、盛り上がりを見せた座談会

# 予測できないことが多い子育て夫婦で子どもと向き合う必要性を感じた育児休業

特集  
男性の家事・  
育児参画

進行／PaPaラボ代表 水野直樹さん(49)  
ラジオのパーソナリティ、司会など幅広く活動。2010年から、父と子の遊び合いを楽しむ「PaPaラボ」を結成、代表を務める。13年、NPO法人「ソナエトコ」設立。14年、日本パパ活料理協会公認パパ活料理の会をスタート。妻と16歳、12歳の子どもと4人暮らし。



山田利久さん(42)  
株式会社ヤマダデンキ  
静岡県出身。2004年、株式会社ヤマダデンキに入社。静岡県内の店舗に配属。14年、同僚の若菜さんと結婚。20年、第2子を授かったことを機に家族で妻の出身地である熊本県へ移住。転勤先で育児休業を1年間取得する。妻と6歳、2歳の子どもと4人暮らし。



杉本一洋さん(36)  
熊本セントラル病院  
リハビリテーション科  
熊本県出身。2009年、熊本セントラル病院に入職し、理学療法士として働く。11年、千尋さんと結婚。第3子と第5子が生まれた時に2ヶ月間、第6子の際に1年間の育児休業を取得。妻と9歳、8歳、7歳、5歳、3歳、1歳の子どもと8人暮らし。

男性の育児休業取得率は全国12.65%、熊本県7.0%（令和2年度）と、まだに割合が低い状況です（図1）。そのような中、「育児・介護休業法改正により、男性の育児休業を後押しする施策が今年4月から段階的に施行されています。そこで育児休業を1年間取得した男性2人に、取得の状況や復帰後の対応などについて、話を聞きました。

## 育休を通して経験したい子どもとの貴重な時間

ありましたか。

山田 仕事の現場は一人欠けたら大変なことになると思っていました。熊本へ異動する前は、副店長だったのですが、管理職が育休を取るのはさすがに難しかった。2人が育児休業を取得したいときさつについて教えてください。

山田 第1子を授かった時は妻が熊本での里帰り出産となり、約半年間、離れ離れの日々を送りました。しかし第2子出産時は、子どもとの貴重な時間を一緒に過ごしたいと妻の両親のいる熊本への転勤・移住と一緒に育休を取得を決意しました。仕事をしている価値と子どもと一緒にいる価値を改めて天秤にかけた時に、子どもが上回ったんですね。育休を取得することで、企業へ補助金が給付されると知ったことも取得の後押しとなりました。

水野 私は3人目が生まれる時、男性の育休を促して職場から取得の提案があり、2ヵ月間休業しました。その後も5人目の時に2ヵ月間取得。その後も5人目の時に2ヵ月間取得しました。人目の時は、生まれる前に子どもの病気が見つかり、身体面、精神面で妻を支えないと1年間の取得を決意しました。

杉本 私は3人目が生まれる時、男性の育休を促して職場から取得の提案があり、2ヵ月間休業しました。その後も5人目の時に2ヵ月間取得しました。人目の時は、生まれる前に子どもの病気が見つかり、身体面、精神面で妻を支えないと1年間の取得を決意しました。

水野 私の場合は、10数年やっていた仕事だったので、1～2日で感覚を取り戻せました。私は家庭での役割分担はどのようにされていますか。

水野 現在は家庭での役割分担はどのようにされています。そのまま寝てしまふこともありますが、なるべく起きて洗濯や炊飯、食器洗い、洗濯物を畳むなどはするようにしています。復帰したからといって、家庭のことを妻に丸投げしないように心掛けています。

山田 保育園の準備などは妻がやっているので、家事全般は自分がやるという気持ちでいます。

水野 子どもが幼稚園生だったころ、遠足の時に妻が入院したことがあります。当時は弁当を作らなければいけない、送らなきゃいけないなど、その重みや大変さが記憶として残っています。しかし自分がも当然すべき役割であつたと2人の話を聞いていて思ひ返しました。まだまだ育休の制度はあっても、職場で取得していくには難しいという話もよく耳にします。推進していくには、企業側が積極的に取得を促して自分たちが増えていくことが大事。それが男性も女性も働きやすい社会へつながっていくの



理学療法士として働く  
杉本さん



屋外でのランチは、  
杉本家のお楽しみの一つ



沐浴などを通じ、子どもたちと接する時間を大切にしています



休日、屋外で子どもと過ごす時間が何よりもリフレッシュという山田さん